

2018年度プロジェクト活動報告：根尾コ・クリエイション

■プロジェクト代表：金山智子

分担者：小林孝浩、吉田茂樹

履修生：佐藤葉、工藤恵美、野呂祐人

■研究概要

本プロジェクトは岐阜県本巣市の根尾地区（旧根尾村）において、何百年にも築かれてきた生活文化を、新しい技術や視点、価値観をもって捉え直し、これからの持続可能な地域社会やオルタナティブなシステムを考えていくことを目的として、2015年より始められた。プロジェクト4年目となる本年は、昨年につき、記憶と記録の新しい表現をテーマに3つの活動を中心に行った。

まず、昨年度リノベーションして作ったジャッキーハウスでは、記憶を記録する活動として「根尾あんばようしよまいか」（根尾のいいものを大切にしよう）をシリーズとして開催した。地元の長老たちによる話を地元の人たちと聞き、時に共に集落を歩き、歴史的資料に触れることで、新たな根尾の発見を参加者で共有した。

また、昨年度に視察した長野県諏訪市のリビルディングセンターとマスヤ（ゲストハウス）をベースに、根尾周辺の廃屋からレスキューした古い木材は廃材、家具や建具などを新たなものづくりに循環させる活動「ねお古材団」を始めた。活動は根尾の大工さんとコラボレーションしながら実施している。ねおこ座を拠点とし、こういった廃材等を欲しい人たちとマッチングさせたり、ものづくりのワークショップを行ったりと、活動の内容は徐々に固めつつある。年度末には、古材などをデータベース化し、ウェブサイトで閲覧できるようにした。

今年度、最も注力したのは根尾の各集落が自分たちで構築した水源とそこから水を分配する仕組みの調査であった。フィールドワークはかなり大変であったが、5箇所の水源システムを調査し、自立共生の仕組みについて分析を行なった。

水源調査に加えて、今も4つの集落で残されている盆踊りについてもフィールドワークを行った。祭りや祈り、水分配システムを「生きるための技術」として、これらのフィールドワークの結果の一部をIAMAS2019にて展示した。「生きるための技術」は2019年度のテーマとして継続していく。

■主な活動内容

◆あんばようしょまいか（5月～7月：ジャッキーハウス）



◆盆踊りフィールドワーク（8月）



◆ねお古材団（9月～翌3月：ねおこ座）



◆水源フィールドワーク（5月～翌1月）

